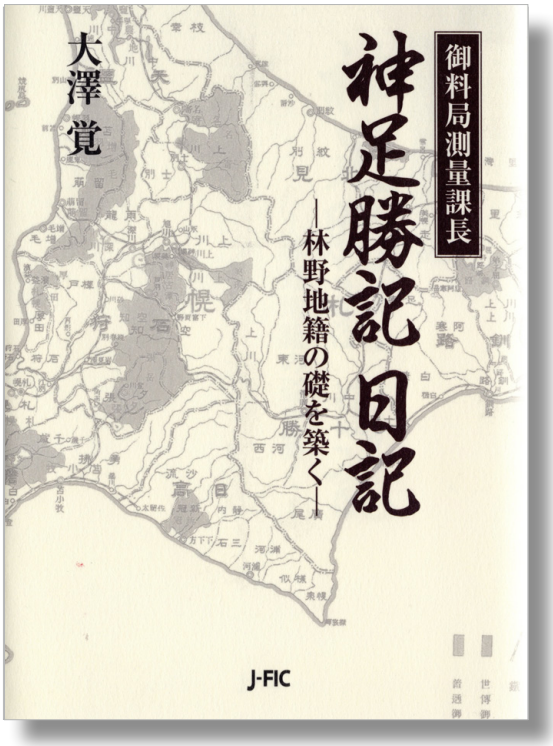
御料局測量課長　神足勝記日記
―林野地籍の礎を築く―

大澤　覚［編著］



日本林業調査会
発売日：2023 年 12 月
定価：22,000 円（税込）
ISBN：978-4-88965-276-5
A5 判，上製
704 ページ

いまでは御料局と言っても知らない人が多いと思うが，日本の国土の約 7 割は森林で，その約 3 分の 1 を占める国有林を管理していた宮内省御料局（現農林水産省林野庁）を指す言葉である．その御料局の初代測量課長であった神足勝記（こうたりかつき）（1854–1937）の全日記がこのほど公刊された．神足は，御料局勤務の前，1879 年～ 1891 年には，内務省地理局地質課 – 農商務省地質調査所に所属して地形測量に従事していたので，地質調査所 – 産総研地質調査総合センターの大先輩でもある（佐藤，1983）．

著者の大澤氏は，法政大学大学院を経て，明治 – 戦前期の皇室財政を専門的に研究している研究者であるが（大澤，1992，1995），このほど，神足勝記の孫である神足勝浩氏から託された膨大な日記類を約 20 年の歳月をかけて丹念に読み解き，その足跡を明らかにした．

大澤氏はまた，神足勝記日記と一緒に保管されていたノート類の中に，1882 年の長野県 – 石川県地域の磁力観測にあたって，地質調査所技師長 E. ナウマンが神足に与えた手書きの指示書を発見し，その翻刻，訳出を試みた．そして，その文書の取り扱いについて地質調査総合センターに相談した結果，ナウマンについて研究実績のある矢島道子・山田直利の両名を紹介され，結局，大澤・山田・矢島の連名で記事をまとめ，本誌に発表している（大澤ほか，2021）．

さて，本書は 700 ページにも及ぶ大著であるが，日記そのものの前にかなりのページ数を割いて「解題」が付けられているので，それに従って紹介したい．

解題は，「Ⅰ．はじめに」で本書編成の経緯が，「Ⅱ．皇室財産設定のはじまり」で御料地形成の発端が，「Ⅲ．内務省・農商務省巡回」で御料地選定過程が，「Ⅳ．御料局」でその形成過程が，「Ⅴ．三つの会計法令」で皇室財産・収入の性格規定などが，「Ⅵ．おわりに」で本書に先立つ時代としての神足の生立ちが，それぞれまとめられている．

解題Ⅰでは，まず著者が本書を執筆する動機となった『孤高の道しるべ』（上條，1983）について触れている．この本の第 3 章「神足勝記と地質調査所の測量」には，神足の功績や伝記が詳しく記されているが，著者はその記述がややもすれば「測量登山」という面に偏り，現実の測量事業そのものが書かれていない点に不満をもち，もう一度回顧録と日記から神足の活動をとらえ直す必要を感じたという．（紹介者感想：同書の第 4 章「神足勝記と御料林の測量」には神足が中心となって行った御料林測量事業の詳しい記述があるので，それも引用して欲しかった）．

解題Ⅱでは，皇室財産設定の基準となった「帝室御基本書類」によると，御料林は 1881 年の内務省より各府県の 200 町歩（約 2,000,000 km^2）以上の原野荒蕪地を皇室付属とする通達に始まるといわれる．これ以降，内務省地理局と各府県との間で，該当する地域の評定が行われ，これらが御料地に編入されていったという．

解題Ⅲでは，上記の評定のために内務省地理局地質課 – 農商務省地質調査所もある役割を演じた可能性があるとし

て，神足が山梨県に 1880 年代に 3 回も巡回したことを取り上げている（紹介者感想：この巡回が御料地評定に関連したものかどうかは，さらに検討が必要であろう）．

解題Ⅳでは，1885 年に宮内省に御料局が設置され，御料地・御料林編入のために 1891 年に測量課が新設された経緯が書かれている．

解題Ⅴでは皇室会計令，帝室会計法，皇室会計法の説明がなされている（略）．

解題Ⅵでは，神足の誕生（嘉永 7 年（1854 年）9 月 9 日）– 熊本藩校「時習館」入学 – 熊本藩貢進生として大学南校独逸語学科入学 – 東京開成学校鉱山学科卒業という神足若年期の履歴が紹介され，「踏査測量事業進程表」と「神足勝記履歴」の 2 資料が付けられている．

解題のつぎに本書の中核である日記が続く．その内容は，第 1 章御料局入局前，第 2 章御料局入局後，第 3 章退局後の 3 部からなり，付帯資料として御料局関係者の詳細な「人名録」が付けられている．日記は市販の日記帳の見開きで 2 日分，1 年で約 200 枚，それが 60 年分あったので，コピーをするだけでも大仕事であった．それらはすべてパソコンに入力，整理された．日記の重要な局面では詳しい注と関連資料が付けられている．

日記第 1 章では，和田維四郎の斡旋により内務省地理局地質課に入ってから，農商務省地質調査所時代におよぶ神足の活動が読み取れる．1879 年 4 月に書き始められた日記は，飛び飛びに，1890 年 10 月まで続く。そのほとんどは「巡回」という名の地形測量である．この期間に神足は，関東・静岡地区の地形測量，40 万分の 1「大日本帝国予察東部」・「同中部」・「同西部」・「同西南部」の地形測量および 20 万分の 1 地質図幅の地形測量（「伊豆」，「静岡」など多数）を行っている（久松，1956）．

日記第 2 章は，1891 年 5 月，御料局長品川弥二郎からの強い懇願により，宮内省御料局へ転任となり，新設の測量課長に就任するところから始まり，日記はここからほとんど毎日のように書かれている．この期間に神足は新測量課長として「御料局測量準則案」を起草し，1894 年には「御料地測量規定」を策定している．これ以降，神足は御料局各支庁の管内巡回を行い，御料地の面積，境界，地形などの調査，測量を行った．1917 年 6 月，病重く，辞意を表明し，担当事務を後任課長鈴木民作に引き継いだ．

日記第 3 章では，退官後，1937 年 7 月 7 日に享年 82 歳で永眠するまでの活動が記されている．

以上，本書の筋書きに従い，その概要を紹介した．本書は日本の国有林測量事業についての貴重な資料提供であるばかりでなく，各地方の測量史や郷土史研究にも活かされるものと考えられる．

なお本書の冒頭には，古武士を想起させる晩年の神足勝記の写真と，北海道・本州の代表的な御料地位置図 13 図が添えられている．後者は大正 7 年刊帝室林野管理局統計書（帝室林野管理局，1918）の付図から複製されたものであるが，普段私共が見る機会の少ない貴重な地図であり，大小さまざまな規模の御料地が，それこそ 200 町歩の林地まで，正確に表示されている．なかでも「長野県・静岡県・岐阜県の御料地」位置図は，木曽・赤石・飛騨などの広大な御料地を含んでおり，紹介者が地質調査所の先輩方（すべて故人）と共に，1950 年代から数 10 年かけて 5 万分の 1 地質図幅の調査を行った地域とも重なっている．これを見ていると，当時営林署の各事業所でお世話になりながら国有林地帯を踏査したことを思い出す．国有林を管理していた営林署（現森林管理局）関係各位の協力なくしては地質図幅事業も成り立たなかったのであり，今後も同じことがいえるだろう．

文　献

久松将四郎（1956）地質調査のための測量の歴史（その 1）．地学雑誌，**65**，89–99.

上條　武（1983）孤高の道しるべ　穂高を初縦走した男と日本アルプス測量登山．銀河書房，塩尻，597p.

大澤　覚（1992）明治期皇室財政統計．法政大学日本統計研究所，町田，278p.

大澤　覚（1995）戦前期皇室財政統計．法政大学日本統計研究所，町田，206p.

大澤　覚・山田直利・矢島道子（2021）「ナウマンから神足勝記への指示書」の発見とその意義．GSJ 地質ニュース，**10**，314–321.

佐藤博之（1983）先人を偲ぶ（2）．地質ニュース，no. 347，28–44.

帝室林野管理局（1918）大正 7 年刊帝室林野管理局統計書．帝室林野管理局，東京，121p.

（地質調査所元所員　山田直利）